

今朝は、多くの方が聖書に関して持つ疑問を取り上げます。

アンサーズ・イン・ジェネシスのブライアン・オズボーン氏の著書 **Quick Answers to Tough Questions** (答えにくい疑問への簡潔な解答) に基づいてお話しします。

15 個ほどの質問に対して、非常に簡潔にお答えします。

この中からひとつの質問だけを取り上げて午前中ずっとお話することもできます。実際、これらのトピックについて、アンサーズ・イン・ジェネシスの本や DVD、その他の資料ではもっと詳しく説明しています。

ですので、それぞれのテーマを深く掘り下げることができそうですが、今朝は、簡潔な答えを出すことにしましょう。

今朝は、基礎的な質問を取り上げます。地球の起源と年齢、進化論、ノアの箱舟と洪水、そして手短かに恐竜について話し、最後にその他の基礎的な質問を取り上げます。

私はたいてい最初に「なぜ」という疑問を取り上げます。

なぜこれがそれほど大切なのでしょう。それは、私たちクリスチャンが神のみことばの權威を守る必要があるからです。

ペテロ第一 **3:15** は「むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明（答え）できる用意をしていなさい。」と語ります。

私たちは、イエスにある希望について答えるよう命じられています。

これは、提案ではなく、命令です。そうすることで、私たちは愛をもって人々をイエスに導くことが出来ます。

なぜ過去について異なる見解があるのだろうか、と思いますか。

世俗の科学者と聖書的な科学者はなぜ過去についてこれほどかけ離れた見解を持つのでしょうか。

質問に質問で返すことにします。化石が存在するのはいつですか。化石は現在に存在する、というのが答えです。

化石には、製造年月日が書かれたラベルがついているわけではありません。また、化石の年代を測ろうとする年代測定法は信頼性が低いことがわかっています。

年代測定法は仮説に基づいています。科学者がその時代にさかのぼって行って、測定結果が正しいかどうかを確かめることはできません。

世俗の科学者が誤った仮説をスタート地点にするなら、導き出される結論も間違っています。

これは非常に重要なポイントです。多くのクリスチャンやキリスト教指導者が、この重要なポイントを見逃しています。

これが、世俗の科学者の多くが見えない過去について誤って理解している理由です。

誤った仮説を立てたので、誤った結論にたどり着きました。これについて、わかりやすい話で説明しましょう。

5 歳の男の子がお母さんとクリニックの待合室にいました。そこに、臨月の女性がいました。

男の子は、女性に近づいていき、「どうしてそんなにおなかがおおきいの？」と尋ねました。

女性は、お腹が大きいのはお腹の中に赤ちゃんがいるからだ、と男の子に説明しました。

男の子は戸惑った様子で、本当にお腹の中に赤ちゃんがいるのか、と聞きました。

女性が、そうよ、と答えると、男の子は、赤ちゃんはいい子か、と聞きます。女性は、とてもいい子よ、と答えました。

すると男の子は言いました。「赤ちゃんはいい子だったのに、どうして食べてしまったの？」おわか

りいただけたでしょうか。  
男の子の推測は間違っていたので、結論も間違っていました。  
皆さん、これこそ、とても頭の良い人たちが地球の年齢や恐竜などあらゆる事柄について完全に間違ってしまうおもしろい理由のひとつです。  
間違った仮説が間違った結論を生みます。  
これを念頭に、地球の起源と年齢の問題について見ていきましょう。  
では、子どもたちがよく親に尋ねる質問を取り上げましょう。けれども、こう尋ねるのは子どもたちだけではありません。  
その質問とは、「神はどこからきたか」という質問です。神はどこから存在するようになったのではない、というのが答えです。神はつねに存在しておられました。  
こう尋ねるのは、なぜアメリカのバスケットボール選手シャキール・オニールはあんなに小さいのか、と尋ねるようなものです。  
シャキール・オニールは、身長 **222.5** センチ以上で、体重は **158** キロ以上です。なぜシャキール・オニールはあんなに小さいのか、と尋ねるといことは、シャキール・オニールを知らない証拠です。  
神はどこから来たかと尋ねるといことは、聖書の神を知らない証拠です。  
創世記 1:1 は、「初めに、神が…」と語ります。創世記は、神の起源を説明しようとはしていません。  
それは、神が永遠のお方だからです。  
永遠の存在には、始まりも終わりもありません。これは論理的に一貫性がありますが、私たちの理解を超えた概念です。  
というのも、私たちの体験はすべて始まりと終わりがあるからです。しかし、神には始まりも終わりもありません。  
これは、私たち人間の頭脳の限界を超えています。  
神は私たちの理解をはるかに超える不思議なお方です。  
ですから、私たちは神を礼拝します。神は、ご自身の力によってすべての物を創造し、すべてのものを維持しておられます。  
もうひとつよくある質問がこれです。  
なぜ神は、これほど多くの死と苦しみのある世界を造られたのか、という質問です。  
ほとんどの人が人生のいつかの時点でこう尋ねます。  
一言で答えるなら、今私たちが目にしているような死と苦しみに満ちた世界を、神はもともと造られませんでした。  
こういうわけで、聖書の歴史がとても大切になります。  
天地創造の初め、神は、死も病気も苦しみもない完璧な世界を造られました。  
完璧だったのです。この世に悪をもたらしたのは誰でしょう。  
それは、私たち人間です。人間の祖アダムとエバによってです。  
アダムとエバが神に背いた結果、この世は完璧でなくなり、現在の墮落した状態になりました。  
創世記 2:16-17 で神は、善悪の知識の木から食べてはいけない、「それを取って食べる時、あなたは必ず死ぬ」とアダムに警告しておられます。  
聖書は、人の罪がこの世に死をもたらした、そしてすべての被造物に悪影響をもたらしたと明言しています。罪はすべてを変えます。  
私たちは皆、最初の罪人の子孫ですから、全員が罪を犯します。もはや、私たちの性質の一部です。  
アダムとエバのせいでもあり、私たちが自分の意志で罪を犯すからでもあります。  
これは、私たちが皆、イエス・キリストをとおして救われなければならない理由でもあります。聖書ではキリストは「最後のアダム」と呼ばれています。  
聖書を学ぶと、その関連性がわかってきます。  
ここでもうひとつ大きな質問が出てきます。これはとても大切な質問です。

地球はいつからあるのでしょうか。私が教会でお話する際、進化論に反対だと言います。そしてほとんどのクリスチャンはすぐに賛成してくれます。

けれども、地球はたった 6,000 年ほど前からあると聖書がはっきり教えている、と話すと、多くのクリスチャンがその聖書の教えが正しいはずはないと考えます。

では、聖書からどのようにして地球の年齢を割り出すのでしょうか。

神のみことばを信じ、そこにいてすべてを造られた神の証を信じるなら、答えを計算することができます。

すると、神は約 6,000 年前に 6 日間で地球を造られたことがわかります。

地球が約 6,000 年前にできた聖書のどこに書いてあるのか、と聞かれることがあります。

もちろん、地球は 6,000 年前からあります、と聖書に書いてありません。けれども、それよりもよい答えをくれます。

地球の年齢を計算できるように、一種の出生証明書を与えておられます。

この出生証明書は、系図です。創世記 5 章と創世記 11 章、その他の個所にもあります。

聖書にあるこれらの家系図は、読んでいてとても退屈に思えます。夜に読めば、すぐに寝付けるでしょう。

けれども、系図が記されているのには理由があります。家系図の中には、その人物が死んだ年齢や、子どもが生まれた年齢が記されているので、単純に足し算するだけです。

これらの系図を計算していくと、アダムからアブラハムまで約 2,000 年です。

アブラハムからイエスまでも約 2,000 年、そして、イエスの時代から現代までが約 2,000 年であることはわかっています。

ですから、地球は約 6,000 年前からあります。言い換えると、イエス・キリストの時代の約 4,000 年前に神がすべてを造られたのです。

よくあるもうひとつの質問は、創世記 1 章の「日」が通常の 24 時間だとどうしてわかるのですか、というものです。これは良い質問です。

その答えを見つけるには、「釈義」という言葉を使う必要があります。これは、「読み取る」という意味です。

簡単に言うと、文脈が意味を左右するので、適切な文脈でその個所を読む、という意味です。

これは言語を使ううえで通常の方法です。伝えようとする言葉の意味を文脈が左右します。

聖書を文脈に従って読み、文脈に従って「日」という単語を読むには、ヘブル語の「日」という単語を見る必要があります。

ヘブル語で「日」という単語はヨムです。

創世記 1 章の文脈において、ヨムという単語がどういう意味かを考えなくてはなりません。

なぜなら、文脈によって、「日」という単語には複数の意味があるからです。

この例文をご覧ください。

父の時代、アメリカを日中に車で横断するには 10 日間かかった。

英語ではすべて「day」という単語ですが、この一文で「時代」「日中」「日」と文脈によって 3 つの違った意味があります。

文脈が意味を左右するというのはこういうことです。これが、言語の通常機能なのです。

ではお尋ねします。ヘブル語の聖書で「日」という単語が約 24 時間の通常の一日を指すのはどんな文脈でしょうか。

答えは、「日」という単語と画面上に挙げた事柄がいっしょに登場する場合は必ず、文字通り 24 時間の一日を指します。

ですから、第一日、第二日、等、「日」という単語と数字が並んでいる場合、は常に通常の 24 時間の一日を差します。

また、夕と朝といっしょに「日」という単語が使われている場合も、常に 24 時間の一日を指します。「夕」または「朝」という単語といっしょに「日」という単語が使われている場合も、聖書では常に 24 時間の一日を指します。

夜といっしょに「日」という単語が使われている場合も、聖書では常に文字通り 24 時間の一日を指します。

明確にしておくために言いますが、聖書で「日」という単語といっしょに文脈的なヒントのどれかひとつがあれば、その「日」という単語は通常の 24 時間の一日を指すということです。

これを念頭に創世記 1 章を読んでみましょう。多くのクリスチャンが創世記 1 章に疑問を持つので、この個所は理解するのがむずかしいのだと思うかもしれません。

また、多くのキリスト教指導者も、創世記 1 章がむずかしい個所のように扱います。しかし、神のみことばを読めば明らかです。

創世記

- 1:5 神は光を昼と名づけ、やみを夜と名づけられた。夕があり、朝があった。第一日。
- 1:8 神は大空を天と名づけられた。夕があり、朝があった。第二日。
- 1:13 夕があり、朝があった。第三日。
- 1:19 夕があり、朝があった。第四日。
- 1:23 夕があり、朝があった。第五日。
- 1:31 ...夕があり、朝があった。第六日。

神は、この個所を理解しがたいものにはしておられません。難しくないので、繰り返されているのは、「夕があり、朝があった。第○日。」○には数字が入ります。

神のみことばは、「日」という単語が通常の 24 時間の一日を指すと定義するのにひとつの文脈的ヒントしか必要ではありませんが、ここには複数のヒントが繰り返し使われています。

皆さん、この文脈から、これが通常の 24 時間の一日だと神が私たちに語っておられることは明らかです。

まるで、人が天地創造の話を疑うだろうと神が知っておられたようです。それで、ご自身のなされたこととそれにかかった日数を強調されたようです。

創世記の「日」について疑問を持つのは、聖書以外の考え方に影響を受けているからです。

さらに、神が何百万年もかけて天地創造をなされたのであれば、それを表現するために使えるヘブル語の単語は他にたくさんあります。しかし、神はそれらの言葉を使われませんでした。

「日」という意味のヨムという単語が使われたのです。そして、この文脈では通常の 24 時間の一日を意味します。

天地創造が 6 日間で起こったという創世記の話を裏付ける他の聖書個所もあります。

出エジプト記 20:11 それは【主】が六日のうちに、天と地と海、またそれらの中にいるすべてのものを造られた。...

これ以上ははっきりと言うことはできません。本当に問うべきは、私たちが神のみことばを信頼するかどうかです。

もうひとつよくある質問に、「なぜキリスト教は地球が何百万年前からあるという説を信じるべきでないのか」、という質問です。

聖書は地球が何百万年前からあると教えていませんし、神学的にも何百万年前からというのはあり得ないからです。また、あらゆる証拠も地球が何百万年前からあることを示しません。

このテーマだけで今日のメッセージの時間すべてを使ってお話することもできます。

けれども、一番の理由は、地球が何百万年前からあるとすると、罪が入る前から死が存在したことになるからです。

罪が入る前から死があったなら、人間の罪は被造物に何の悪影響も与えなかったことになります。アダムが存在する前からこの世にすでに死が存在したことになるからです。

死が人間の罪の結果でないなら、イエスの死は私たちの罪の代価となりません。

これは、福音の根幹を揺るがします。だからこのテーマは大事なのです。それが全てです。

もうひとつよくある質問に、放射年代測定についての質問があります。これらの年代測定法は、地球が何百万年前からあることを証明するのでしょうか。

手短かに答えると、もちろんこれらの年代測定には欠陥があるので、地球が何百万年前からあることは証明できません。

皆さんにお尋ねします。放射性同位体が存在するのはいつですか。過去でしょうか。現在でしょうか。現在です。石や化石も現在に存在します。私たちは現在に存在するものを観察します。

石に含まれる成分には、不安定なものもあり、時間を経て他の成分に変化します。

実験室でその変化を観察すれば、変化の過程を見ることができ、どれだけの時間をかけて変化が起きるかを計算し、岩や化石ができた年代を推測することができます。

しかし、この過程には証明されていない、証明することのできない多くの仮説が含まれます。世俗の科学者たちは、過去に関する自分たちの先入観に基づいて解釈する傾向があります。

実際、世俗の科学者たちは、放射年代測定が発明される前から、これらの石や化石が非常に古いと考えていました。

まず、彼らは放射年代測定が発明されるよりずっと前から、聖書は間違っていると思いこんでいました。

ノアの時代に起こった洪水を否定し、すべては自然を超越する神の力によってではなく、自然に存在するようになったと仮定しました。

これはずいぶん思い切った仮説です。また、現在の現象を観察すれば、見ることのできない昔の現象も常に同じ方法で起こったと仮定します。

証拠を検証する前から、神と聖書を否定しているのです。

彼らは偏狭で、見えない過去についてすでに作り上げた信条をもとにすべてのデータを解釈します。

仮説が間違っているので、間違った結論に至るのです。

放射年代測定が完璧に機能したとしても、石や化石ができた時代を証明することはできません。なぜなら、これを試して観察することができないからです。また、測定法自体が、仮定に基づいて作られているからです。

放射年代測定には、常にあらゆる不整合があります。そのいくつかの例を挙げてみましょう。

炭素 14 年代測定を使って、マンモスの年代測定を試みました。すると、一頭のマンモスの一部が 2 万 9,500 年前のもの、他の部分が 4 万 4,000 年前のものという結果が出ました。

死んだばかりのアザラシに、炭素 14 年代測定を使うと 1,300 年前のものという結果が出ました。測定結果は約 1000%外れています。

カリウム—アルゴン年代測定を使って、冷えて石となって固まった火山性溶岩を調べました。

これは最適の試験材料です。歴史家の研究から、特定の溶岩流が起こった時期がわかっているからです。

カリウム—アルゴン年代測定が正確かどうかを試すのにとっても良い方法です。結果は次のとおりです。

シチリア島のエトナ火山は 1972 年に噴火しましたが、測定結果は 21 万年から 49 万年前と出ました。実際には約 50 年前のものです。

もうひとつは、ニュージーランドのナウルホエ山です。噴火したのは 1954 年ですが、カリウム—アルゴン年代測定の結果は、330~370 万年前と出ました。

もうひとつの例は、ハワイのキラウエア火山です。1959 年に噴火しましたが、測定結果は 170~1,530 万年前という結果が出ました。

これほど大きな誤差幅を持たせても、年代測定の結果は実際とはかけ離れていました。年代測定がまったく見当違いな年代を算出した記録は他にもたくさんあります。これらの年代測定法は機能していません。

もうひとつの例です。1980 年に噴火したセントヘレンズ山ですが、この噴火からできた岩の測定結果は、34~280 万年前と出ました。

誤差幅が 700%もあるのに、それでもまったく間違っています。この調査がされたとき、岩はできて 12 年しか経っていませんでした。

年代測定法がどれほど信憑性の低いものかを証明する一例です。

炭素 14 年代測定法はどうか、という質問もあります。

炭素年代測定は、地球が何百万年も前からあることを証明してくれると信じている人もいますが、実際には、炭素 14 年代測定法は若い地球説を示す一番良い証拠の一つです。

炭素 14 は、私たちの大気中で形成されます。炭素 14 は不安定な原子で窒素 14 になります。

植物が炭素 14 を吸収し、動物がその植物を食べます。ですから、すべての生物には炭素 14 が体内に含まれます。

忘れてはいけないのは、炭素 14 は不安定なので、放射性物質の中では比較的短い期間で窒素 14 に変化します。私たちの体内には炭素 14 が存在します。

生物が死ぬと、炭素 14 の吸収が止まります。死んだ生物の体内にある炭素 14 は崩壊して、窒素 14 に変わります。

炭素 14 は速く崩壊するので 10 万年以内に動物の体内には完全に炭素 14 がなくなっています。

ということは、炭素 14 を含む岩や化石が見つかったら、それが何百万年も前からあるという可能性はない、ということです。ですから、これは試すのによい方法です。実際にはどんなことがわかるでしょう。

岩石層の中のすべての有機物で、大量の炭素 14 が見つかっています。そして、すべてがほぼ同量の炭素 14 を含んでいます。

石炭、恐竜の骨、何億年前に形成されたと言われるダイヤモンドでも炭素 14 が見つかります。ダイヤモンドは非常に硬いので、形成後に年齢測定に影響する不純物が混入することはありません。

それらの炭素 14 はまだ崩壊して窒素 14 になっていないのです。これは、それらの物質ができて 10 万年以下であるという大きな証拠です。これは聖書的世界観に適合します。その一方で、地球が何百万年何十億年もあるという世俗の考えと矛盾します。

もうひとつのよくある質問は、遠くの星の光についてです。この議論についてご存じでない方のために説明しましょう。

私たちが見る星は、地球から何百万光年、何億光年離れた所にあります。

あまりにも遠いので、その星の光が地球に届くには何百万年何十億年もかかります。それで、その星の光が見えるのだから、宇宙は何十億年も前からあるはずだと言われます。そうでなければ、これらの星の光が地球に届く時間がないというわけです。

これは興味深い質問ですが、これもまた多くの仮説に基づいた話です。クリスチャンの皆さん、お尋ねします。

宇宙の創造は自然の出来事でしょうか。それとも、超自然の出来事でしょうか。これは超自然の出来事です。

天地を創造された一週間、神は超自然的な働きをなさっていました。神は、無から宇宙を生み出されたのです。

神は、ことばによって宇宙が存在するようにされました。ご自身が命じることばによってです。神は、すべての分子をご自身の命じるところに置き、神のご栄光のために神の目的を果たすようにされました。これは超自然的な厚意です。

ヘブル 11:3 信仰によって、私たちは、この世界が神のことばで造られたことを悟り、したがって、見えるものが目に見えるものからできたのではないことを悟るのです。

聖書は、「神は仰せられた。...するとそのようになった。」と繰り返します。神ですから、そうおできになるのです。

創世記 1 章は何度もこれを繰り返します。

#### 創世記 1 : 14-15

1:14 神は仰せられた。「光る物が天の大空にあって、...地上を照らせ。」そのようになった。

神のみことばは、4 日目に神が太陽と月と星を造られたと語ります。これは、地球にしるしと季節と光を与えるためでした。

神は光を造られました。光はおそらく瞬時に地上を照らしたでしょう。神が無から造られたすべてのものがそうであるように、これは奇跡でした。

全知全能の神にとって、ご自身の望まれる方法で地上に星の光を届けることは問題ではありません。神は神ですから。そして、神がご自身のなさったことを語っておられます。問題は、私たちがそれを信じるかどうかです。

このテーマの皮肉な部分は、世俗主義の人たちも似た問題に直面することです。

ビッグバン型によると、地球は 137 億年前にできました。世俗主義者の直面する問題とは、137 億光年よりはるかに遠い星の光も地球から見えるということです。

彼らも同じ問題に直面しますが答えはありません。ビッグバンには、地平線問題という問題があります。

ビッグバンが起こったとき、光のスピードが速くなり、宇宙は光の速さよりも速く膨張したが、その後スピードが遅くなって今のスピードになったと世俗の科学者は言います。

まったく証拠はありませんが、ただ信じろというのです。

ビッグバン理論によると、無だった空間でなぜかわからないけれど無が爆発し、光がなぜかわからないけれどスピードを増し、なぜかわからないけれどスピードを落とした、ということになります。

これは一切科学的ではありません。どちらかというと妄信的で。

創造論科学者は、神が自然の法則を用いて、遠くの星が目的を果たせるようにその光を地球に届かせた方法について、いくつかの仮説を立てています。

天文学者や物理学者は、この大問題を解決しようとしています。

アンサーズ・イン・ジェネシスのダニー・フォークナー博士は、ダーシャ説を唱えています。

ラス・ハンフリー博士はあるモデルにたどりつき、ジェイソン・ライル博士もいくつかの説を提案しました。

大事ななのは、神がなさったことは自然の法則に従っていても、超自然的に神がなさったことでも、聖

書の神にとってまったく問題ないということです。

皮肉にも、全能の神を信じるクリスチャンにとって遠くの星の光は問題ではありませんが、進化論者やビッグバン信奉者にとっては問題だということです。それは、彼ら自身の信じていることを論理的かつ科学的に説明できないからです。しかし、私たちは説明できます。

次の質問は、進化論に関わる質問です。

動物が進化しているのがわからないのか、という人もいます。それが本当なら、聖書は間違っています。

もし聖書が進化論について間違っているなら、他のことについても聖書を信じる理由があるのでしょうか。

この質問で大切なのは、進化論の正しい定義です。多くの人は進化論を誤解しています。

進化論とは、すべての動物が同じ祖先からできていて、単細胞生物が長年を経て複雑な生物になったというのが基本的な考えです。

これは一度も観察されていません。進化論者は、観察されない理由は進化がゆっくり進むからだと言います。だから現在には進化を見ることはできないと言います。

質問を変えましょう。動物は変化するか、と聞かれたら、答えは「はい」です。しかし、私たちが目にする動物の変化は進化ではありません。これは聖書と整合性が取れます。

神はそれぞれの種類に従って繁殖するように動植物を各々の種類に造られたと 10 回も言及または示唆しておられます。

「動物の種類」とは、現代の分け方でいうと「動物の分類」と言えます。

ですから、聖書によると、神は犬をイヌ科として造られたので、犬は犬しか産まないということです。ネコはネコしか産みません。

オオシモフリエダシヤクが進化論の証拠だと指摘する人もいます。この蛾が何に進化したかわかりますか。蛾に進化したのです。

ダーウィンは、フィンチという小鳥を観察し、進化論者たちは 150 年の間にこの鳥が進化したと言います。

さて、フィンチは何に進化したのでしょうか。フィンチです。

ここで問わなくてはなりません。その昔、ダーウィンは何を観察したのでしょうか。彼が観察したのは、小さなくちばしのフィンチ、中くらいのくちばしのフィンチ、そして、大きなくちばしのフィンチでした。

これは、今も見られるように、造られた種類の中での変種です。

罪でのろわれた私たちの世界で変種が起こる原因は何でしょう。変種にはおもにふたつの原因があります。

ひとつは自然淘汰、もうひとつは遺伝子の突然変異です。

私たちクリスチャンはこの明白な事実に異論はありません。ただ、創造された種類の枠内における変種ができるだけです。

犬からは犬、ネコからはネコ、フィンチからはフィンチができます。

自然淘汰や突然変異によって、ある種類の動物が異なる種類の動物に変化することは可能でしょうか。いいえ、不可能です。その理由は次のとおりです。

ここをしっかりと理解する必要があります。自然淘汰や突然変異では、進化が妥当だと言えるような新しい特性を生む新たな遺伝子情報が追加されることはありません。

自然淘汰や突然変異では、既存の遺伝子情報の配列が変わったり、一部の遺伝子情報が失われたりするだけです。

突然変異では、既存の遺伝子情報が損なわれ、生物が複雑化するのではなく、むしろ簡略化します。

ある種類の動物から他の種類の動物に変わるような新しい遺伝子情報は追加されません。



そのメカニズムを示す一例です。イヌ科の元祖である 2 匹がノアの箱舟を降ります。そして 2 匹は繁殖を続け、犬がたくさんできます。

これらの犬が地上に増えますが、あらゆる土地の環境に合わせて、違った組み合わせの遺伝子が生き残ります。

もちろん実際にはもっと複雑ですが、原則的に遺伝子はこの説明通り機能します。2 匹の犬にはたくさん遺伝子情報が含まれているので、短い毛、少し長めの毛、長い毛の犬が生まれる可能性はあります。また、寒い環境では、短い毛や少し長めの毛の犬は凍死する傾向にある一方、長い毛の犬は生き残ります。

次第に、そのような環境では長い毛の遺伝子情報を持つ犬だけが残ります。

それが自然淘汰です。ではお尋ねします。

長い毛の犬は新しい遺伝子情報を得たのでしょうか。それとも遺伝子情報を失ったのでしょうか。その答えは、実は短い毛と少し長めの毛の遺伝子情報が失われたのです。これは、進化とは正反対の現象です。暑い環境ではこの反対のことが起こります。

暑い場所では長い毛の犬の多くは体温が上昇しすぎて死に、ついにはその場所には短い毛の犬だけが残ります。

どちらの場合も、犬は遺伝子情報を得たのではなく失ったのです。あらゆる環境があらゆる種類の犬を生み出します。そこに進化は含まれません。突然変異では新たな遺伝子情報が追加される可能性があると考えられる人もいます。

実際には、突然変異で起こるのは遺伝子配列の変化、または既存の遺伝子情報の欠落です。既存の情報以上に複雑なものが追加されることはありません。突然変異は DNA 内の複製ミスです。遺伝子をより複雑化させる突然変異はこれまで観察されていません。逆も真理で、私たちの創造主によってすべての生物に与えられたもとの遺伝子情報が突然変異によって損傷します。

世俗の科学者リー・スペトナー博士は次のように語っています。「少しの遺伝子情報でも追加したという突然変異は一例も観察されていない。確かに研究対象となったすべての突然変異は、遺伝子情報を破壊するものである。どれも、大進化...へと導くような突然変異の例とは言えない。」

これは、進化論者にとっては大問題です。進化論者リチャード・ドーキンス博士は、この問題に対してこのように反応しています。

ゲノムに新たな情報を追加する遺伝子突然変異または進化の過程を一例でも挙げてください、という求めに対し...

ご覧のとおり、言葉を失っています。ドーキンス博士は頭の良い人かもしれませんが、例をひとつも挙げられませんでした。そのような例がないからです。ちゃんとした科学を使えば、もとの状態よりも少ない遺伝子情報と既存の遺伝子情報の新しい組み合わせが見つかるだけです。これは、進化とは正反対です。

もうひとつの質問は、猿人についてです。

骨は現在にしか存在しないことを思い出してください。そして、人は自分の世界観をとおしてその骨を見て解釈します。

先ほど言ったように、間違っただけから始めると、間違っただけの結論に至ります。

これを念頭に、進化論者たちは間違っただけの世界観に基づいた 3 つの方法で、自分たちも猿人の存在を信じる人たちも納得させようとしています。

- 類人猿の骨を見つけて、実際よりも人間に似せて見せる。
- 人間の骨を見つけて、実際よりも類人猿に似せて見せる。
- 類人猿の骨を見つけて、人間の骨と混ぜ、猿人を作り出す。

ある世俗の科学者は言いました。「ご存知のように、化石は気まぐれだし、骨をどんなものにでも仕立て上げられる。」小さな骨のかけらを見つけて、実際の証拠以上に自分たちの想像力に任せて結論

を出すのです。

「ルーシー」という言葉を聞いたことがある人も多いでしょう。全身の約 25%が見つっています。手足の骨は見つかっていません。その後、脚部分の骨のあるルーシーの親戚を見つけました。ルーシーの骨は全部チンパンジーの骨に似ていました。

それなのに、博物館ではルーシーを人間のような手足を持つ人間にそっくりの猿人として紹介しています。これが間違っていると分かっているにもかかわらず。

これも、ラミダス猿人と呼ばれる猿人と仮定された生物です。

発掘された骨は砕けて壊れた状態で、科学者は 15 年かけてこれを復元しました。そして、猿人を作ってアルディと名付けました。

これは、猿人から人への中間種として紹介されました。

ディスカバリー・チャンネルは、これを進化論の証拠として特集し、アルディが人間のように直立状態で歩く様子をコンピューターアニメーションでリアルに見せました。

これもまた、証拠としては弱いのですが、これを信じる科学者やディスカバリー・チャンネルは、ここでも実際の証拠よりも自分たちの想像力を働かせました。

これは、ネブラスカ猿人と呼ばれる猿人と仮定される生物です。ネブラスカ猿人の骨はいくつ発掘されているでしょう。たったひとつです。歯 1 本だけが見つっています。

その 1 本の歯から、猿人の全身を作りました。これは、100 万年前のものと仮定されています。

これを進化論を唱える教科書に載せ、進化の証拠として博物館に展示しました。

何年も経って、何人かの科学者たちがネブラスカ猿人の骨をさらに発掘しようとその場所に戻りました。そして、他の骨が見つかりました。

そしてわかったのは、ネブラスカ猿人は人ではなく、豚の一種だったのです。

これも猿人のひとつでピルトダウン人と呼ばれます。この猿人の骨は、進化論の証拠として 40 年間も博物館に展示されていました。

何年も経って、これはねつ造だったことがわかりました。

一般大衆に進化論を信じてほしいあまり、オランウータンのあごの骨を人間の頭蓋骨にくっつけ、酸性の溶液を使って骨を古く見せようとしてしました。

もっと詳しく考えるために、ルーシーに話を戻しましょう。先ほど言った通り、ルーシーの骨は腰骨も含めて全部チンパンジーの骨のようでした。

ですから、現在のチンパンジーのように 4 足歩行だったでしょう。

しかし、ルーシーの骨を発掘した人たちはその事実が気に食わなかったのです。というのも、ルーシーがただのチンパンジーの死体なら、誰もその発見に長く注目しないからです。

彼らが発見したかったのは、ルーシーが人間のように直立歩行したということです。そうすれば、発見者は有名になれますし、進化論の仮説にも合致します。そこで、この問題を解決するために彼らがしたことが次の動画に示されています。

この短い動画で、発掘者たちは腰骨が間違った形で化石化したと想像しました。それで、腰骨を人間のように直立で立っていたものに見える形に研磨機で作り変えたのです。

もうひとつの大きな質問は、アダムとエバが私たちの祖なら、これほど多様な人種をどのように説明するのか、というものです。

すべての人間はこのふたりの人にさかのぼれると聖書は明言します。これは、生物学的には地上にひとつの人種しかいないということです。では、あらゆる人種がいるのはどう説明できるでしょう。

肌の色の違いをどう説明できるでしょう。まず、その言葉を適切に定義しましょう。私たちの肌の色は違うのでしょうか。それとも、同じ色で明るさが違うのでしょうか。

私たち人間の肌は本当に違う色なのでしょうか。赤色、黄色、黒、白でしょうか。そうではありません。私たちは同じ茶色のこげ茶から薄茶色まで明るさが違うのです。白人は白い肌ではなく、明るい色、アフリカ人は黒い肌ではなく濃い色なのです。

私たちは実際、皆同じ色なのです。ただ、薄茶色からこげ茶色と明るさが違うのです。それぞれの肌の明度は、肌の中のメラニン色素の量によって決まります。メラニンが多いと色が濃く、メラニンが少ないと色がうすくなります。私たちは違う明度の同じ色の肌なのです。ホームセンターでペンキの色サンプルを見ると、ひとつの色でも濃さの違ういくつかのサンプルがあるのと同じです。

人類の肌の色の濃さは千差万別です。同じ色ですが濃さが違います。同じ人種で特定の濃さの肌しか生まれないのはなぜかという質問もあります。どうしてそうなるのでしょうか。なぜそうなるかという一番の説明は、人間の歴史上、大昔何かが起こって、人々が別々の集団へと分断されたからです。人の遺伝子の蓄積情報が他の集団と分断され孤立し、世界中の人の集団で各々、肌の色の明るさなどの特定の遺伝的特徴が優勢となります。

皆さんにお尋ねします。人の集団を分断孤立させた聖書の歴史の出来事が何かわかりますか。

答えは、バベルの塔で起こったことです。これは、大洪水の約 **100** 年後に起こりました。

同じ言語を話す人同士で集まり、集団となりました。

これは、現在見られる多くの人種と完全に一貫性があります。聖書の歴史が確認できます。科学的にも聖書的にも理解しがたいことはありません。

神はアダムとエバの中に、あらゆる種類の人々を生み出すのに必要な遺伝子情報をすべて組み込まれていました。それは一代目の子どもからそうです。これは現在でも見られる現象です。

これは双子の写真です。ひとりとは色白、もうひとりとは色黒です。母親はジャマイカ人、父親はドイツ人です。

もう一枚、双子の女の子ですが、肌の明るさはずいぶん違います。

これも双子ですが、肌の色の濃さがかなり違います。

これは、オーストラリアのアボリジニの写真です。髪の色は金髪から赤毛までさまざまです。

最近の遺伝子研究によると、地球上の人間ふたりを比べると、遺伝子の違いは **0.1%** 以下です。つまり、私たちは皆、**99.9%** 遺伝子的に同じということです。ですから、人種はひとつです。また、これは人間が数千年しか存在していないことの証拠でもあります。家系図を保存している人は、その祖先をノアの息子たちからノアまでさかのぼることが出来ることもよくあります。

例えば、アイルランド人は、その祖先をノアの息子ヤペテまでさかのぼれます。

中国のミャオ族は、その祖先をノアまでさかのぼれます。そして、それより先の、神がちりからアダムを造られたという聖書の話だと思われるところまでさかのぼれます。次の質問は、ノアの箱舟と洪水についてです。

ノアは、どうやってたくさんの動物を箱舟に乗せたのでしょうか。

箱舟は巨大な舟でした。貨物列車を **500** 両ほど積めるくらいの大きさです。

こどものお話で出てくるような小さくておかしな形の船を想像している人は、そのイメージを捨ててください。

答えは簡単です。神が動物 **2** 匹ずつ連れてこられました。これはすべての種類ではなく、各分類の動物 **2** 匹です。

神は、オオカミ、ディンゴ、キツネ、タヌキ、そして飼い犬の全犬種を連れてこられたのではありません。イヌ科の先祖となる動物 **2** 匹だけが必要でした。その **2** 匹から、今存在するイヌ科のあらゆる動物が現れたのです。

プードルやチワワは載せる必要はありませんでした。

ノアが箱舟に載せる必要があった動物は最大でも約 **1,400** 種であり、数にしても **6,758** 個体です。それなら箱舟に十分なスペースがあります。

これには、恐竜も含まれます。後程お話ししましょう。

次の質問は、岩石層ができるには何百万年もかかるのではないか、という質問です。

一言で答えると、かかりません。短期間で形成されます。水と鉱物がすばやく岩石を形成することは

よくあります。その例を挙げましょう。これは岩の中の時計です。

これは、岩の中に点火プラグがあります。

セントヘレンズ山は、短時間で岩石層が形成されたよい例です。

長時間かけなくても、状況さえ整えば、短期間で溪谷ができた例があります。

地球規模の洪水が地球上の地形を形成したという説明に至ります。

次の質問です。化石ができるまでに何百万年もかかるのではないですか。この答えも、いいえです。

化石になるには、物体は短時間で埋没される必要があります。

この化石化したハムのように。または、この化石化した魚は、口にした小さな魚を食べ終わるひまもないほど一瞬で埋没しました。この魚竜は、分娩中に埋没されました。ですから、長年かけてではなく、短時間のうちに埋没されたに違いありません。

この例は、犬が木の穴に突っ込み、出られなくなり、そのまま死んだ姿です。約 20 年で化石になりました。自然界で発掘される化石とほぼ同一に見える化石が、実験室の環境なら 24 時間で形成されます。長年かけなくても、環境を整えばできます。

地球規模の洪水があれば、無数の生物の死骸が水によって地上のいたるところに散らばり、岩石層によって隠されます。

これがまさに私たちの発掘する化石の状態です。

次に、恐竜についてです。これについては手短にお話します。

恐竜は地上の動物だったことは分かっています。

そして、創造の 1 週間の第 6 日に造られたことも分かっています。

そこで聞かれるのは、聖書になぜ恐竜という単語が出てこないのか、という質問です。

それは、パソコン、列車、ロケット、という単語が聖書に出てこないのと同じ理由です。

その理由は、恐竜という単語自体が 1841 年までなかったからです。恐竜とは、恐ろしいトカゲという意味です。恐竜を指す言葉は他に古くからあります。

ヘブル語のタンニンから、英語ではドラゴンという単語ができました。日本語では竜と訳されています。この単語には、恐竜という単語以上に広い意味がありますが、私たちが恐竜と呼ぶ生物も含まれます。

もうひとつの質問は、墮落前、肉食恐竜は何を食べていたか、という質問です。

答えは、他の生物と同じようにもともとは植物を食べていた、です。聖書は、創世記 1:29 で教えてくれます。

創世記 1:30 も、すべての動物が植物を食べていたと語ります。

ですから、アダムが罪を犯す前、すべての恐竜は植物を食べていました。

アダムが罪を犯し、動物があらゆる意味で変化した後、動物同士の捕食が始まりました。恐竜も例外ではありません。次の質問は、箱舟に恐竜は乗っていたか、です。

ノアはすべての息をする地上の動物を箱舟に載せた、と聖書ははっきりと語ります。ですから、恐竜も含まれていたはずですが。

大きな恐竜の全種類を載せられるほど箱舟は大きかったのか、という質問もあります。

恐竜も他の動物と同じです。

犬、馬、猫、等思いつくどんな動物も、元祖となる種が洪水の後にあらゆる種類となりました。

例えば、トリケラトプスはよく知られている恐竜ですが、これは、セラトプスの種です。この種にはたくさんの種類がいましたが、ノアが箱舟に載せなくてはならなかったのはセラトプス種の祖となる 2 頭だけでした。全種類を皆載せたわけではありません。

首の長い竜脚類の恐竜もたくさん種類がいましたが、ノアが必要だったのは 2 頭だけです。

恐竜の種は約 60-80 のみです。

そんなに大きな動物をどうやって箱舟に載せるのか不思議に思う人もいます。

恐竜の平均サイズは、水牛ほどの大きさです。

ニワトリほどの大きさの恐竜もいました。

今も生きていたら、ケンタッキー・フライド・恐竜があったかもしれません。

すべての恐竜は生まれたときは小さかったことがわかっています。恐竜は卵から生まれますが、これまで見つかった恐竜の卵で最大のもはラグビーボールほどの大きさです。

卵の中にいる恐竜の赤ちゃんが息ができるよう、卵に空気が入る必要がありますし、同時に重さに耐えられる強度も必要です。

卵が大きすぎると殻が分厚すぎて恐竜の赤ちゃんが息をできません。ですから、恐竜の赤ちゃんは小さかったのです。

神が幼い恐竜を連れてこられたと考えるのが妥当です。常識的に考えればそうなります。

もし恐竜が数千年前に存在していたなら、その証拠が見つかるはずだ、と言う人もいます。このトピックだけでもプレゼンをひとつすることができます。

先ほどお話したように、恐竜の骨から炭素 14 が見つかります。つまり、それが何百万年も前のものであることは不可能なのです。

さらに、炭素 14 よりもはるかに良い証拠は、恐竜の骨から恐竜の軟組織が見つかることです。これはまだ伸縮性のある柔らかい細胞です。このトリケラトプスの骨がその一例です。

カモハシ竜の骨からも見つかっています。

このティラノサウルスの骨からは、血管と赤血球が見つかりました。何度も検査され、本物であることに疑いの余地はありません。世俗の科学者にはこれは大きな衝撃でした。軟組織が数千年も残るのは、ノアの洪水のように短時間で埋没したような特別な状況でしか起こりません。しかし、科学的に見てどんな状況下でも何百万年も残ることは不可能です。これは、恐竜が地上に生きていたのが何百万年前ではなく数千年前であるとする聖書の主張を支持する説得力ある証拠です。このような質問をする人もいます。

人間と恐竜が同じ時代に生きていたという歴史的な記録はあるか、という質問です。答えは、ある、です。多くの古代文明には、恐竜に似た生物に関する昔の話がたくさんあります。

恐竜という言葉は 1841 年までなかったことを忘れないでください。ですから、それまでは竜とか他の名前と呼ばれていました。

世界各地の民族に竜の伝説があります。その話の多くは、現在わかっている恐竜の種類を表しています。

恐竜に何が起こったのか、と聞く人もいます。

恐竜は死にました。なぜどうやって死んだのでしょうか。絶滅した他の動物と同じです。洪水の後、地上はそれ以前とは違っていました。気候も変わり、氷河期があり、もしかすると餌となる食べ物が少なかったのかもしれませんが。それとも多くは狩猟で絶滅したのかもしれませんが。そのような理由がすべて重なって恐竜は絶滅したのでしょうか。聖書の観点からスタートすれば、それほど不思議ではありません。最後に、いくつかの重要な基礎的質問に答えましょう。

よくある質問にこのようなものがあります。どうして頭の良い人たちが進化論や地球の年齢、その他のことについてこれほど間違えるのか、という問いです。その答えは、これが知性の問題ではないからです。これは心の問題です。これはその人の世界観に関する問題です。

問われているのは次のことです。神のみことばと人のことばに矛盾がある場合、どちらを信じるかです。頭の良い人たちが過去について間違った仮定をしていると、証拠を検証する際に間違った結論に達します。

ローマ 1 : 18-19 は次のように語ります。

というのは、不義をもって真理をはばんでいる人々のあらゆる不敬虔と不正に対して、神の怒りが天から啓示されているからです。なぜなら、神について知りうることは、彼らに明らかであるからです。それは神が明らかにされたのです。

私たちの世界観が私たちの考え方に影響を及ぼす例を最後にもうひとつ挙げましょう。とても頭の良い人たちでも、思考という要塞は破れないのです。

火星にも溪谷があることがわかりました。これらは北米のグランドキャニオンよりも大きい溪谷です。科学者たちは、このような大きな溪谷を形成したのは何か調べ始めました。その結論がこれです。複数の科学誌に寄稿した世俗の科学者たちによると、火星の溪谷は数週間で形成されたというのです。こう言っているのは、地球上の溪谷が何百万年もかかって形成されたと主張する人たちです。この科学者たちはどのようにして火星の溪谷が短期間で形成されたという結論に至ったのでしょうか。世俗の科学誌を引用しましょう。

「聖書規模の洪水が...火星にグランドキャニオン級の溪谷を瞬時に形成し...」地上で地球規模の洪水が起こったというのは不可能だと主張する人たちがこのように語るの、ずいぶんおかしいと思いませんか。

水の存在が皆無または微少だと言われる星で聖書規模の洪水があったことは信じられるのに、地球のように表面積の7割が水で覆われている星で聖書規模の洪水があったことは否定するのです。

なぜそれほど盲目なのでしょう。答えは、彼らが科学の博士号を持つ頭の良い人たちかもしれない一方で、博士号は人の心を変えないからです。その人たちの心が神の御前に正しくないのです、サタンの偽りや欺きにだまされてしまうのです。

ローマ 1 : 18-19 は次のように語ります。

というのは、不義をもって真理をはばんでいる人々のあらゆる不敬虔と不正に対して、神の怒りが天から啓示されているからです。

なぜなら、神について知りうることは、彼らに明らかであるからです。それは神が明らかにされたのです。

聖書は、すべての人がたましいの奥底では神がいることを知っているのに、それが真実であってほしくないから、その知識を抑圧するのだと言っています。

創造主なる神がいて、その神が私たち人間を造り所有しておられるので、私たちはこのお方に対して弁明しなければならぬ、ということを人は知っています。神は大昔、大洪水を起こしてこの世をさばかれました。そして、未来にもこの世をさばかれます。罪深い人間は、そういう考えを好みません。それで、不義によって真理をはばむのです。これは、知性の問題ではなく心の問題であり、霊の戦いです。

この情報を私たちのクリスチャン生活にどのように活用すればよいのでしょうか。第一に、この情報は、イエスを信じる本物の信徒たちに大きな励ましをもたらしてくれます。私たちの信仰は、力強い科学的な証拠によって確かなものだと確認されています。私たちの信仰は理にかなっているのです。神の造られた世界で目にする物事と神のみことばで読む内容は合致します。

勇気を出してください。そして、妥協せずに神のみことばの權威に堅く立つことに挑戦してください。もしこれまで妥協していたなら、そのことを悔い改めましょう。謙虚になって、聖書を信じる信仰が薄かったと認め、そのことをお赦しくださいと神に祈りましょう。

また、すべてにおいて妥協せず神のみことばの權威に立つよう子どもたちに教えましょう。そうすれば、私たちは勇気を持てます。勇気を持ってこの世を変え、イエス・キリストによる救いをもたらす信仰へと人々を導くことができます。

コリント第二 10 : 5 は語ります。

私たちは、さまざまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてののはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ、そうすることによって、私たちの信仰を効果的に弁証できるようになります。

ペテロ第一 3 : 15-16 は語ります。

むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしていなさい。ただし、優しく、慎み恐れて、また、正しい良心をもって弁明しなさい。

そうできるようになるにはどのような備えが必要でしょう。自分の信仰を弁明できる情報をもって備えることができます。

テモテ第二 2 : 15 は語ります。

あなたは熟練した者、すなわち、真理のみことばをまっすぐに説き明かす、恥じることのない働き人として、自分を神にささげるよう、努め励みなさい。

また、アンサーズ・イン・ジェネシスをはじめとする正統なキリスト教団体が出す創造論に関する情報を入手しましょう。英語では [Answersingenesis.org](http://Answersingenesis.org) 日本語では [www.gophertree.jp](http://www.gophertree.jp) で読むことができます。